

塩田が勝つのか勝たないのか。今年のエリートポイント大会の結果から言えば、全日本の女子選手権の焦点はここに絞られるとって過言でない。夏以降の大会では出走した6大会のうち4大会を優勝。残りの二つも準優勝である。しかし、期待された昨年も大きく崩れた。今年はどうか。

「絶対優勝したい」

こう言い切る女子の選手は珍しい。優勝に飢えていると言っても良いかもしれない。確かに今年だけでも、5大会を優勝している。だが「誰もが一番を目指している大会で一位になったことがない」

確かにここ一番で塩田は勝てない。学生選手権も大本命に挙げられながらも、一度も勝てなかった。関東インカレすら勝っていない。



「重要な大会になるたびに、また駄目じゃないか、そんな気分になってしまう。一度勝てればよい方向に考えることが出来ると思う」

勝つことで、何かが変わるのではないか、そういう風に塩田も考えている。どのようにすれば、重要な大会で結果が出せるか、「サンプルが出来る」

体力的には並みのエリート男子なみにある。技術面でも以前に比べればだ

いぶレベルアップしてきている。体力だけで当たれば早いだけではないことが、今年の成績から伺える。

「前より地図での高さなどをいろいろと見れるようになったと思う。思い切り不安なく進めるようになりました」

では、何か。

「走れると気持ちいい。いい気分で出来るが、ゆっくりしなきゃいけないと、じれったくなってくる。抑えきれずどんどん進んでしまうことがある」

我慢しなくてはいけない場面で我慢が出来ない。しかも、新潟では気持ちよく走れるロード区間とがまんが必要な藪の区間が入り混じっているとされる。このスピードの切り替え、そして藪の中での我慢のオリエンテーリング。塩田がビッグタイトルを手にするためにはそれが必要だ。

今年塩田に迫る4大会を優勝した番場は欠場の模様である。塩田が、目指すオリエンテーリングを実施できたら勝てる選手はまずいないと思える。

そんな塩田に昭和の森大会で競り勝ったのが、宮内だ。アドベンチャーレース出身で本格的なオリエンテーリングもまだ2年目であるが、早くも優勝候補の一人である。



昨年も学生選手権初出場ながら、優勝した番場に秒差の二位。今年のショートも制し、前日の全日本リレーでも一走トップゴール。

「走ります。爆走します」

言葉は大胆であるが、オリエンテーリングはコントロールされている。自分の弱みを理解し、コントロールされたオリエンテーリングを巧みに展開する。そのルートはたまに人を驚かせるほど確実性が強調されている。こういったルート選択の中にも勝ちへの拘りが垣間見られる。

そんな彼女には今の日本女子には勝負への拘りが足りないように思える。勝つために必要な全ての準備を行っていないと写る。そんなフィールドでの勝負に彼女はさほど関心を示さない。

「何も考えていない」という彼女は塩田とは対照的である。

そんな自分を「多分怖い存在だと思うけど、(優勝するのは)すごく確率の低いこと」と分析するが、昨年の全日本でも終盤にトップにたっており、初出場初優勝の可能性があった。難易度が高くなるのは不安であるが、予想される藪などは体力的に秀でている彼女に有利である。また、ロードでの走りでも他を引き離す可能性がある。

この二人に対抗するのは昨年の準優勝で日本ランキングトップの田島や、早稲田で準優勝の渡辺であるが、二人に順当に走りきられたら厳しいだろう。ただ、大一番で勝てない塩田、技術的な不安が残る宮内、両方ともはずす可能性は十分ある。特に田島は課題であった体力面への対応も今年は十分としており、コース次第では塩田、宮内が大きく崩れなくとも優勝は狙えるであろう。

日本ランキング 2/19時点	
1	田島利佳 60
2	塩田美佐 60
3	番場洋子 60
4	高野由紀 77
5	渡辺円香 55
6	元木友子 55
7	志村聡子 54
8	宮内佐希子 53
9	加納尚子 52
10	三好暢子 49

(山本英勝 hidi_o@yahoo.co.jp)